

— 特 許 記 事 —

近最の製鉄鋼業界における発明

- 公告番号 発 明 の 名 称 (発明者) 出願人
特許出願公告 (昭和 34—1—17)
- 昭 34—51 磁 選 機 (山本進介) 日本磁力選鉱 K. K.
相対峙するマグネットの磁極を円板又は円板とし、互に異極となるように帯磁させ、これを相互に逆方向に回転する様にした磁選機において、磁極の対峙面を薄い非磁性ベルトで覆い、該非磁性ベルトを従動車と共に回転するようにしたもの。
- 昭 34—52 スラッグポケットの如き高温空所よりスラッグの如き固体沈積物を除去する方法の改良 (山本進介) 日本磁力選鉱 K. K.
(ゲルリット・クルウク) スプリングト・エヌ・ヴェ (オランダ)
(略)
特許出願公告 (昭和 34—2—18)
- 昭 34—755 磁 選 機 (山本進介) 日本磁力選鉱 K. K.
(略)
- 昭 34—758 鉄合金を酸素含有ガスを以て処理する方法 (ホルケ・カルル・エヴァルト・ヨハンソン外1) (ホルケ・カルル・エヴァルト・ヨハンソン外1)
ストラ・コッパルブルグス・ペルグスラグス・アクチボラグ (スウェーデン)
(略)
特許出願公告 (昭和 34—2—21)
- 昭 34—852 鉄鉱還元装置 (チャールトン・エードル・テイラー) 同人 (米)
鉱石を金属の溶融温度以下に保ちつつ、それが鉱石中に存する他材料と化学的に結合することを防止しながら鉱石から金属を低温度で直接還元する方法を行う装置。
- 昭 34—853 粒 鉄 製 造 装 置 (中島統一) 同人
粉態原料を使用すべき低温の旋回流動還元炉の抽出口に空気に触れないようにしてデトロイト型の揺動自在の弧光式電気炉の装入口を連設し且つ該電気炉を絶えず揺動させ得る様にしておき、前記還元炉から抽出される生成粉態海綿鉄を粉態のまま加熱し且つ揺動させ粉態海綿鉄中の微粉鉄粒相互間に反覆衝撃圧を加え粒鉄を得るようにしたもの。
- 昭 34—854 製 鋼 法 (ウエルネル・クッベッテ外1) (独) 三菱製鋼 K. K. 外2
高温度に対する性質を改善したフェライト又はフェライト・パーライト組織の鋼合金殊に鍛造用インゴットの製法において、(a)鋼を塩基性電弧炉または誘導電気炉内で溶融し、(b)そのマンガン含有量を調節して酸化期間の終りにおいて 0.25% を超えないようにし、(c)鋼を最大 10% のけい石を含む仕上還元鋼滓で処理し、(d)このように製造した 0.25% 以下のマンガン含有量と 0.10% 以下のけい素含有量とを有する鋼を真空鑄造法で鑄造し、その際に鋼をトラップを通して真空下にあるチル鑄型又は普通の鑄型内へ注入し、(e)鑄造中に鋼に脱酸剤を添加するのであるが、鋼のマンガン含有量を 0.25% 以上に、かつそのけい素含有量を 0.10% 以上に上昇させるようなマンガン又はけい素の量の装入をさける方法。
- 昭 34—855 鉄カルシウム基合金より成る鉄鋼精練剤 (音谷登平外2) 金属材料研究所長
鉄 80~10%、カルシウム 80~5% を基礎成分とし、これに鉄とカルシウムとに共通に強い親和力を有するけい素、アルミニウム、マンガンのいずれか 1 種または 1 種以上を各 50 乃至 5% 及必要に応じニッケル 0~5% を添加含有させたもの。
- 昭 34—856 合金鉄または合鋼金の製造方法 (米持重太郎) 関西電気製鉄
合金鉄又は合金鋼を製造する場合に、それ等成分元素を含む鉱石の全部又は大部分を予め配合し、之に硫化物を配合して電気炉等により合金鉄の硫化物として抽出した後この合金硫化物に、電気炉による脱硫処理を施す方法。
特許出願公告 (昭和 34—3—6)
- 昭 34—1153 二重内被型焼鈍炉 (西田佐一外1) 八幡製鉄 K. K.
(略)
- 昭 34—1156 金属塊鑄造用鑄型 (尼木敏雄) 久保田鉄工 K. K.
鑄型の底部の型壁内に鋼棒の 1 本乃至数本を、鑄込孔の全周を連続して圍繞するように鑄包んだもの。